

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年5月23日】第124号



第一高等学校・中等部から

5月16日(月), お隣にある東京農業大学第一高等学校・中等部から, 校長先生, 教頭先生が, 農大稲花小を訪問されました。本校では開校前から, 第一高等学校・中等部の先生方にはお力をお貸しいただいています。また, 生徒の皆さんにも, 本校児童の「見守り」をお願いしており, 通学の途上などで困っている児童に声をかけていただいたことも少なくありません。新型コロナウイルスのまん延する前は, 運動会への参加, 合唱部による式典での校歌合唱, 吹奏楽部によるコンサートなどもしていただきました。

この日の訪問では, 校舎内をご案内するとともに, 4年生の英語など授業の様子もご覧いただきました。また, 本校の給食やアフタースクールの最近の様子などについてご説明いたしました。将来, 農大稲花小のたくさん子どもたちが, 第一高等学校・中等部で学べることを期待しています。なお, 学校法人東京農業大学には, 東京農業第一高等学校中等部および東京農業大学第三高等学校附属中学校に加えて, 2023年4月には東京農業大学第二高等学校中等部も開校される予定です。そして, それぞれの中学校, さらに高等学校で特色ある教育が行われています。

[◇東京農業大学第一高等学校中等部](#)

[◇東京農業大学第二高等学校中等部\(設置認可申請予定\)](#)

[◇東京農業大学第三高等学校附属中学校](#)

琴の音

本校にある和室から, 琴の音が聞こえます。4年生が音楽の授業で琴を学んでいるのです。授業用の琴に加えて, 東京農業大学邦楽部(部長 田中尚人教授)のご厚意で, 立派な琴もお借りすることができました。

はじめてのお琴の授業はどうだったでしょうか。見に行ったところ, ご自身も琴を演奏される音楽の先生のわかりやすいご指導で, 子どもたちはふざけたりすることもなく, 琴爪をつけ, 「さくら」を弾く練習をしていました。まだメロディはなめらかではないかもしれませんが, 子どもたちのいつにも増して真剣な表情が印象的でした。

本校が2019年4月にスタートしてからしばらくの間, 和室を使う機会もあまりありませんでした。しかし, 昨年度は東京農業大学茶道部の応援を得て, 2年生と3年生は和室に座って茶道を体験しました。今年は, 琴の演奏にも和室が役立っています。うれしいことですね。

[◇東京農業大学邦楽部](#)

かわいいフォークダンス

ある日の1年生の体育は、フォークダンスでした。肩に手をのせて4~5人で縦の一行になり、右足、左足と出したり、跳躍をしたりしながら前に進んでいくダンスです。簡単なようでも、これは全員の息が合っていないと、意外に難しいのです。順調に踊るグループもありますが、そうでないグループは前の人足とぶつかったり、後ろの人にぶつかられたり、最後は引っ張り合って転んでしまったり……。しかし、次第に、コツが飲み込めたようです。グループで息を合わせ、にこにこ踊っている様子はかわいらしく、見飽きません。他人の動きを感じて、自分の体を滑らかに動かすこと、これは大切な力だと思いながら見ていました。子どもたちも、友だちと一緒に踊り、息が合ったときの楽しさを味わったことでしょう。

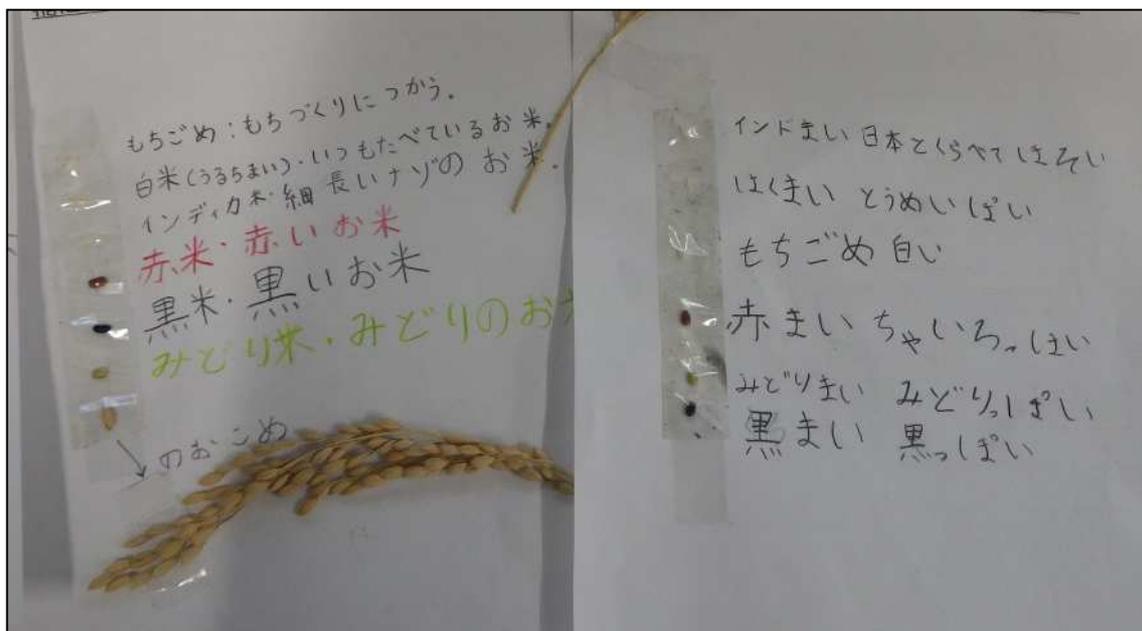
稲にきく

5月19日(木)、2年生の稲花タイムで、「稲にきく」という授業をしました。本校では、1年生では種まきと田植えや稲刈りをします。2年生は、稲、米、ご飯について学び、また、空き教室に特設した「稲の博物館」で、藁製品、米からできる様々な食品、ご飯を食べるための道具などの実物を見たり触ったりしました。藁からつくるわらじやむしろ(ゴザ)には誰もが興味津々の様子でした。アルコール、酢、餅、せんべい、あられ、ビーフン、さらにミャンマーやベトナムの米菓も並べました。タイでもち米を蒸す籠、日本のおひつ、寿司桶、しゃもじもあります。

その後、再び教室で、うるち米、もち米、インディカ米、みどり米、黒米、赤米、そして稲穂を一人ずつに配布し、イネの標本作りもしました。最後に、今年もペットボトルにイネの種まきをしました。これから、発芽の様子を観察していきます。

図書室前には、東京農業大学国際農業開発学科入江憲治教授からお借りしている標本が展示され、世界のイネの様々な品種を見ることができます。

小さな「お米博士」が、さらに育っていくことを願っています。



田植え

5月20日(金)に1年生は、横浜市青葉区の田んぼに、田植えに出かけました。この体験学習は、本学関係者の水田をお借りし、東京農業大学農芸化学科の教員・大学院生等のご指導のもと、イネの手植えをします。

バスを降りた子どもたちは身支度を整え、田んぼに向かいます。田んぼのオーナー野路様ご夫妻にご挨拶をした後、農芸化学科の横田健治教授や加藤拓准教授からもご説明を受けました。そして、いよいよ、靴下を履いた足で田んぼに入ります。子どもたち36名に8名の院生が付き添っての手植えです。同じく農芸化学科の犬伏和之教授にも見守られ、泥に足を取られながらも、苗を受け取って植え進んでいました。



田植えのあとは、用水路で靴下を脱ぎ、足を洗います。冷たく流れる水が、気持ちよかったことでしょう。

当日は、生産環境工学科(広域環境情報学研究室)によるドローン空撮調査なども行われていました。また間もなく、農芸化学科の別の研究室でも研究のための田植えを行い、さらに、東京農業大学第一高等学校・中等部の生徒の皆さんも、田植えにやってきます。本校児童の植えた苗の面倒もみていただくことになっています。



[◇東京農業大学 農芸化学科](#)

[◇東京農業大学 生産環境工学科](#)

笑味ちゃんグッズのプレゼント

3年生と4年生は「バケツ稲づくり」の栽培セットをプレゼントしていただきました(学校だより第122号掲載)が、今週はさらにJA全中(一般社団法人 全国農業協同組合中央会)様から、楽しいグッズを本校児童全員が頂戴し、持ち帰りました。みんなの良い食を応援するキャラクター笑味(えみ)ちゃんマークのついたクリアファイルやバンダナ、文具などのセットです。笑味ちゃんは小学2年生という設定で、口ぐせはパク!だそうです。本校の子どもたちにも、感謝しておいしく食べ物を頂き、食の楽しさや農業の大切さを理解できるよう、育てていきたいと考えています。

[◇JAグループ みんなのよい食プロジェクト\(笑味ちゃん\)](#)



にぎやかになってきたテラス

稲花小の畑では今、トマト(1年生)、ナス(2年生)、そしてエダマメ(3年生)が育っています。そして、学校内のテラスでも、ミニトマト、つるなしインゲンなどを一人一鉢育てています。ペットボトルでも一人数本のイネの苗が育っています。

種まきだけでは、収穫できません。子どもたちも、水やりなど管理に忙しくなることでしょう。



正門の近くには、ナス・トマト・カボチャを育てており、児童は、日々、成長する変化を楽しみながら登校しています。

校長 夏秋 啓子